

史料室 2008 年度常設展示

「日本における加速器の歴史 その2」

— KEK 史料室の所蔵品などから —

1945 年終戦のあと、我が国の 4 つの加速器は GHQ により廃棄されました。しかし、1949 年湯川秀樹博士のノーベル賞受賞に続き、1951 年アメリカからローレンスが来日、日本での原子核の研究再開の道が開けました。大阪大学、京都大学、理化学研究所とともに東京大学原子核研究所が開設され、それぞれサイクロトロン再建に着手しました。

原子核研究所の高エネルギー部は、高エネルギーの加速器建設を計画、電子シンクロトロンを 1959 年に完成させると、次の計画は素粒子研究所となり、1971 年つくば市に高エネルギー物理学研究所が創設されました。

今回は、この 1945 年から 1970 年代にスポットをあてて、日本における加速器の開発について、解説いたします。

主 な 展 示

- PS（陽子シンクロトロン）全貌模型（国際交流センターにて展示中）
- 「日本の大型加速器分布図」
- 「加速器の種類」
- 年表「日本における加速器の歴史」（1945 年～ 1977 年）

場所：KEK 研究本館 1F コミュニケーションプラザ